



# 静岡市における 令和4年台風第15号の 被害を受けて

太田嶋俊彦

全私保連広報部 / 静岡市・竜南こども園園長

## 深夜の豪雨・続く停電と断水で休園に

2022年9月23日の深夜。台風第15号の接近で降り出した雨。発達した雨雲の停滞により線状降水帯が発生し、静岡を覆い、私の住む地区でも次第に猛烈な雨に変わりました。そして激しく降り続く中での突然の停電。避難指示のエリアメールが大きな音で何度も鳴り響き、キャンプ用を買ってあったライトで外を照らすと自宅前の道がすでに川のよう。20年以上住んでいる中で初めて見る光景と、暗闇の中で迫ってくる水に、これまでにない不安と緊張感を覚えました。

12時間雨量が400mmを超え、記録的短時間大雨情報の発表はじつに16回を記録、複数の地点で観測史上第1位の値を更新しました。通信も不安定になる中、近くに住む家族などと連絡を取り合い、無事であることが確認できた時の安堵した気持ちを感じています。

降り続いた雨もようやく午前3時過ぎには小康状態となり、自宅への浸水を免れることができましたが、一睡もできない中での不安な一夜を過ごしました。

長引く停電により信号機も消えている中、大きな交差点を互いに譲り合いながら車で園に向かいました。数年前の大雨の際、排水の不具合からか園庭に水が溜まり園舎近くまで水が迫っ

たことがあったので心配でしたが、園内を点検したところ幸い大きな被害は見られませんでした。当日は早番、調理員、主幹、副主幹をはじめ、早い時間にもかかわらず職員も何人か駆けつけてくれたり連絡をくれたり。電気のつかない薄暗い事務室の中でしたが、職員の頼もしさや心強さを感じて励まされ、明るく前向きな気持ちになることができました。

ただ、相変わらず停電は続いており、その後断水も始まったため、急遽休園を決め、スマートフォンから保護者と職員宛てに一斉メールを送りました。

静岡市には葵区、駿河区、清水区の3区がありますが、葵区の山間部にある高さ60mほどの大きな送電鉄塔が土砂崩れにより2基倒壊していることや、清水区の興津川の取水施設に多量の土砂などがつまり、復旧の見通しが立たない状況であることを後の情報で知りました。葵区



内は午後には段階的に停電や断水も解消しましたが、清水区はその後も長い断水に入ることになりました。

これまでに経験のない光景を

目の当たりにして

同じ静岡市内の地区でも近くの河川の様況や立地等により被災状況は大きく異なっており、他の地区の方に話を聞くとその温度差を感じます。特に清水区内で巴川中下流域を含んだ地区においては氾濫により甚大な被害が出ており、同区の鳥坂地区では、最大で2mを上回る浸水深が複数か所で確認されました。私の自宅から2kmほどの近い地区で、普段利用するホームセンターやスーパーマーケットなどがある身近な場所でもあり、ほんの少しの距離での被害の差に驚かされます。



翌日車で通ったところ、流れてきた泥が堆積してすっかり風景が変わった道路の両脇に、ソファや棚などの家具、さまざまな家電等がところ狭しと山積みになっており、中古車販売店では完全に水没して色が変わってしまった販売車両がボンネットや扉を全開にしてずらりと並んでいました。水没して使えなくなった家具が絶え間なく次々に運び出されていく様子を見て、さながらテレビで見る被災地の様子で、これが現実ではないかのような感覚にとらわれてしまいました。

#### 被災職員の経験談から

当園の職員でも被災した職員がいましたが、水が迫ってくる中、急いで

玄関に土嚢を設置したものの、風呂の排水溝等から水が逆流してきて浸水を止めることができなかつたようです。深夜、真っ暗な中で水がどんどん家に侵入してくるこの恐怖や無力感を語ってくれ、身につまされる思いでした。本人を含めご家族にケガなどはありませんでしたが、真新しい住宅や車が浸水被害にあつて



しまったことは本当に残念なことです。住宅の修繕にあたり数か月間自宅を空けねばならず、家族の多い職員は当座の住居探しに頭を悩ませていきます。

車が水没した方々に話を聞くと、エンジンがかかってもさまざまなエラーやエンジントラブルが発生し、汚水によるシートの臭いが取れず、廃車になることが多いようです。レッカーは1か月先、レンタカーは県内では手に入らず、代替の車の購入も車両価格が上がっていて困難とのこと。断水により風呂に入れず洗濯もできないなど、災害はその後の生活にも長く尾を引くものであることを痛感することとなりました。

#### 始まった助け合いの輪

今回の台風による災害は当初報道も十分にされておらず、市内在住者にもかわからず隣の被災状況を十分に把握することが困難な状態でした。数日してようやく他園の状況などがわかり始め、断水が長く続く清水区の園にも支援の輪が広がっていきました。

園長会が主体となって被災を免れた葵区と駿河区の私立園で備蓄の水を集め、清水区

の園に配布しました。水を届けた際に、遊んでいた子どもたちが寄ってきて「水持ってきてくれたの?」と、平時と変わらない笑顔で迎え入れてくれたことがとても印象的でした。

断水が続いている清水区の公立園は解除されるまでの期間、やむを得ず休園していましたが、一部の私立園では備蓄の水や配布の水



を使い、給食を簡素化するなどして工夫することで休園せずに続けた園もあり、私立園の気概を感じる事ができました。近隣の保育士養成校でも、被災した家庭が復旧作業に専念できるようにボランティアで一時預かりを行うなどの支援を独自で行っていたようです。

後日、実際に被災した清水区の園からも話を聞くことができました。当日朝、早番の職員から連絡が入り園に向かったものの、道路が完全に水没していたため車で向かうことができず、膝の高さ以上もある水の中を歩いて出勤されたそうです。園内は30cmほど床上浸水したとのことですが、木製棚は水を吸い膨張するなどして

### 実際の被災園を訪ねて

使えなくなり、扉なども建付けが悪くなり開かなくなる、床板はそり上がり、絵本や紙芝居は剥がれて、洗濯機やコピー機、ダムウエーダーなどの機械についてはすべて使えなくなってしまうとのこと。監査が近く書類を整備して1階の床に並べておいたところ、それらもすべて水に浸かり、24時間扇風機を回すなどして乾かしたけれども、相当な日数を要したそうです。

セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンをはじめ、さまざまな規模の支援団体が訪れたようすが、支援団体側がいち早く被災状況に気づき、自発的に支援の手を差し伸べてくれたとのこと

で、「家電や絵本の提供など、多くの方々に助けられた」と感謝の思いを語っていました。特にavexより、浜崎あゆみさんが多くの支援物資を持って園を訪れたことは大きなサプライズだったようです。近隣のどなたかが、浜崎あゆみさんのInstagramに園が被災し困っていると伝えてくれたことで、支援の動きにつながったとのこと。

徐々に水が出なくなる中で、速やかにプールを組み立てて水を貯めるなど、先生方の確かで迅速な対応も功を奏し、短い休園期間からの開園につながっていました。

また別の園でも、泥の入った園舎内の掃除や廃棄物の処理にあたり、職員の力はもちろんのこと、保護者等が大型タンクやトラック等を用意してくれたことで早い解消につながることができたり、特に自治会の速やかな対応にも助けられたようです。園長先生や副園長先生をはじめ、前向きでバイタリティーあふれる頼もしい先生方が揃っている園で多くの話を聞くことができ、多くの学びを得ることができました。

### 今後の災害への対応を考える

近年、静岡市では災害による大きな被害を免れており、同時に私自身の防災意識も次第に薄まってきていたため、今回の台風における被害を通して多くの気づきがありました。

実際に被災した園でも、次々に来るボランティアを十分に活用できなかったり、支援表明を積極的かつ具体的に行った方がよかったり、など、さまざまな課題も感じたようです。また、棚を動かすと泥が出る、床暖房の全面改修が必要など、完全な復旧までにはまだ時間がかかりそうです。

子どもたちや保護者、職員の安全を守り、事業継続していくために、改めて自園や家庭での対策を見直し、実効性のあるBCP(事業継続計画)をはじめ、防災対応力の強化を行っていく必要性を強く感じた体験となりました。